

足を運ぶべきもの、学会。



聞くはさらなり、発表するこそ、をかしけれ。

特集

学会。

足を運ぶべきもの、

特集は裏面へ

in 台湾



あけましておめでとうございます。
本年もどうぞ吉田南総合図書館を
宜しくお願い致します。
新年はじめの特集は「学会」。
台湾での学会発表に挑んだ
人環院生さんからのレポートです！



しょうようかん

京都大学 吉田南総合図書館 (愛称:逍遙館)

〒606-8501

京都市左京区吉田二本松町

Tel : 075 (753) 6524, 6525

Fax : 075 (753) 6896

Email : eturan61@mail.adm.kyoto-u.ac.jp

HP : <http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/yoshidasouthlib/>

Blog : <http://yoshidasouthlib.hatenablog.jp/>

Twitter : @yoshidasouthlib

HP



Blog



L
i
b
r
a
r
y

N
e
w
s
l
e
t
t
e
r

図書館報『かりん』が発行されました！

館報名『かりん』の由来

カリンとは中国原産のバラ科の落葉高木です。4～5月に淡紅色の可憐な花が咲き、10～11月頃には黄色く熟した楕円形の実が生ります。中国の古い詩に「我に投ずるに木李(カリン)を以てす、これに報ゆるに瓊(たま)を以てせん」(彼女は花梨の実をくれた、私はお返しに美しい珠を贈ろう)とあり、カリンは長いよしみをなす意とも女性の求愛に男性が応える意とも言われます。

図書館報『かりん』は、図書館前の樹木、カリンにちなんでいます。香り高いカリンのように、内容豊かで、世代や分野を問わず幅広く多くの方々に愛されるように、また、利用者の学習や研究成果に結実できるようにという願いをこめて、「かりん」と名づけられました。



巻頭言

Περιπατεῖν

林 信夫

寄贈図書

吉田南構内各部局教員及び関係者寄贈図書

声

書庫との出会い
戻ってきました

中元 洸太
佐伯 直樹

図書館愛称によせて

知の世界を逍遙せよ！

辻 正博

知の世界を逍遙する

教養部があった頃
教養教育に想う
オープンで自由な学び 映画、大学、図書館、
そしてインターネット
ノンフィクションで知る技術の進化の面白さ

高橋 由典
川井 秀一
飯吉 透

グレート・ブックス読書会によせて

矛盾・問い・共感

小林 哲也

国際化、学際化から見た逍遙館への期待

喜多 一
北川 進

特別寄稿

光合成をやめた不思議な植物の生活に迫る

末次 健司

図書館にないものと公文書館の必要性

伊従 勉

特別図書紹介

図書館の活動

自著を語る

イタリアン・セオリー
貨幣と欲望
都市を冷やすフラクタル日除け
面白くなくちゃ科学じゃない

岡田 温司
佐伯 啓思
酒井 敏

館報『かりん』は館内で配布中です。
ご来館の折にはぜひ一度、
お手に取ってご覧ください。
また、京都大学学術情報リポジトリ
KURENAIでも、近日公開予定です。



Follow me! "@yoshidasouthlib"



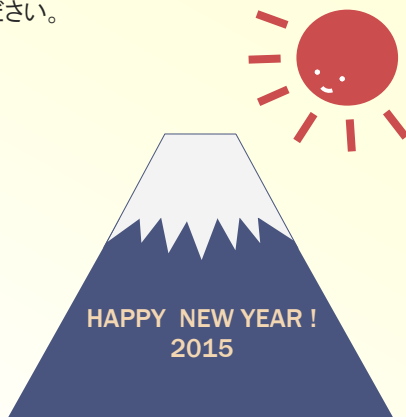
冬季特別貸出を終了します

冬季特別貸出が終了します！返却し忘れることのないようご注意ください。
読み終わった本はお早めに図書館までお持ちください。

下記期間に貸出・更新された本が対象です。
特別貸出の図書は更新出来ませんので
全て【1月13日(火)】までにご返却ください。

学部生：12月15日(月)～27日(土)
院生/教職員：11月28日(金)～12月10日(水)

返却期限日を超えて借用された場合、
貸出超過期間と同じ期間
資料の貸出が出来なくなります。



【附属図書館】図書館にURAがあります。KURA HOUR スタート！

研究プロジェクトをもっと活性化したい！
研究のための助成金を得るには…？
プレゼン資料をもっとブラッシュアップしたい。

そんな悩みごと、一緒に解決しましょう。
月曜午後、附属図書館にURAがあります。
URAは、専門知識と経験をもとに研究者の
研究活動を支援するプロフェッショナル。
何を支援してくれるのか興味がある方は、
ぜひKURAデスクに気軽にお越しください。
研究者としてのスキルをアップさせたい方は
ワークショップへ！

詳しくはこちら



KURA Desk

「研究」のよろず相談受け付けます。

場所：
附属図書館1階 ラーニング・commons
日時：
毎週月曜日 13:00 - 17:00
(月曜が祝休日の場合は火曜)

KURA Workshop

「研究」の体力アップ講座。
URAがトレーナーです。
第1弾は、「研究を伝える」シリーズ。

次回は 1/19(月)
『マスメディアを使って「研究を伝える」方法』
講師：白井哲哉
時間未定

「学会」って、耳にしたことはあるけど、自分達と何か関わりがあるの？これを読まれている方の中には、いま一ツピンとこない方もおられるかと思いますが、今回は、今年の夏休みに台湾で開催された学会に参加し、発表された人環院生のNさんにインタビューをしました。お話を聞いてみると、学生の皆さんにとって、案外身近な存在なのかもしれないですよ、学会って！

―まずはご所属とご身分、ご自身の研究テーマについて教えてください。

人環博士課程三年生です。細かく言うと、博士課程に入って五年目の五回生です。研究テーマは「国語学：古典（江戸時代）の語彙や文法について」です。

―どのような学会で発表されたのですか？

「東アジア日本語教育・日本文化研究学会」という学会です。二〇一四年八月二十三日（土）に、台湾の台南にある崑山科技大学¹で発表しました。比較的、若手の参加が多い学会です。

―発表内容を教えてください。

「歌学書（和歌を勉強する本）における口語的な表現」について、発表しました。

歌学書にもいろいろな書き方があります。今でいう参考書のような書き方（つまり、書き言葉の文体）をしているものが一番多いのですが、中には、師匠の述べたことを書き綴って（＝話し言葉の文体）本にしたようなものもあり、そのような形態を口述筆記といいます。口述筆記といえども百パーセント話したままを文章におこすかどうかでもおかしくなります。筆記する人によって口語的な表現の仕方がいろいろあり、それらについての研究をしています。

今回、私は紙のレジュメを用意して発表しましたが、他の方は**パワーポイントを使ったスライドによる発表が主流**で、ス

ライドも扱いこなせるようにならねば、と感じました。

―学会参加までの経緯を教えてください。

「発表したいことができたから、学会で発表してみよう」と思ったのがきっかけです。去年末あたりになんとなく考えがまとまったので、そろそろ学会に出て発表してみようかと思い、今回に至ります。

八月の学会に向けて、四月末にエントリーし、五月末に発表内容の要旨八百字を提出しました。それから本番までに自分の研究室（国文研究室）の院生さんたちの前で発表して、意見を貰いながら修正していききました。資料作成については、学会のために作るというより、既に出上がっているもの（研究内容）の発表なので、体裁を整える程度で、それほど苦労はしませんでした。

―学会がある、という情報はどこで入手するのですか？

その学会の学会員になれば、メールやお知らせ、学術雑誌が手元に送られてくるので、そこから情報を得ていました。研究室の前に、ポスターが貼ってあったりすることもありますが、学会員になるのに特に資格は必要ない場合が多いですが、中には紹介者が必要な場合もあるようです。

―学会にあたっての心構えがあれば、教えてください。

学会を見に行くとしても、いきなり発表はないでしょうし、聴講になるでしょう。聴講に、ムチャクチャ気構えて行く必要はないですが、アドバイスとして、聴講に行くなら社会人に求められる最低限のルールは守って参加してください。

「行儀よくすること」！

また、最初は発表している人の言っていることが難しく感じるかもしれないけれど、雰囲気をつかむだけでもためになるし、発表者の中で、自分に（研究分野や

研究の進め方が）近い人を見つけて目標にすることもできると思います。

発表をする人向けのアドバイスは、「**周到なる準備をしていけ**」！²。プレ発表（練習）したら時間配分がわかるので、体に覚えさせるといいと思います。また、急な変化に慌てないように、きちんと構えて発表に臨めるようにしておくこと、ですかね。今回、実際に「**」**機器が不調になった会場というのが出てきました。それでももうろたえてる場合ではないので、アクシデントも視野に入れるくらいの余裕ができたらいいですね。

―学会について、会場や聴衆の雰囲気、発表者国籍などを教えてください。

台湾へは日本人三人と、台湾人の留学生一人で行きました。代表的な学会は、土日にわたっての開催が多いかと思えます（例えば土曜日午後から夕方まで、日曜は朝十時から夕方までなど）。今回の学会は、土曜日の午前十時～午後五時半、その後懇親会が二時間ありました。

参加者層は主に日本、台湾、中国、韓国の人たちでした。雰囲気は、理事の先生がすごく気さくな方で、かつ、院生や、若手の先生が多い学会なので、どちらかというとフレンドリーな感じでした。堅苦しくないと感じたのは、多国籍だからということもあるでしょうが。

発表者は、学会によって違ってきましたが、今回であれば博士課程の院生、若手の先生が中心でした。今回は違いました。学会によっては、退官間際の大先生が発表される場合もあります。通常なら五十～百人前後というものが多くと思います。今回参加した学会は、発表人数の多い学会でした。会場が十個あり、発表者が五十人くらいで、学会全体として参加者については、七十人くらいでした。けれども、ビザの都合で参加できなかった方があと二十～三十人程度いたらしく、元々は大体百人程度が参加予定だったようです。

―ところで学会発表というのは学生のうちからするのですか？

一番若くて修士課程の院生を見たことがあります。博士課程に入ってから発表している人が多いですね。院生にとって、質疑応答の機会をもらえることは貴重です。ので、発表の機会があるなら、したほうが良いと思います。

―今回参加されたのは国際学会ですが、国際学会に出席するメリットとは？

一意見としてですが、国内にとどまらず、国際的に自分の研究がどのような位置づけとされているかを知ることができると同時に、自分の研究のレベルアップが期待できます。

将来的に研究を続けていきたいのであれば、**何かしらチャレンジして実績を積んだほうが良い**ですよ。

聴講のみなら学部生でも参加可能なので、一度見に行ってみるのも良いかもしれません。

―最後に、参加後の感想を。

院生や先生方と交流できたことが一番の収穫でした。学会は、自分の研究の発表をする場であると同時に、自分の研究分野と近いことを研究している人に巡り合え、**情報交換ができる場**でもあります。また、台湾に日本語学科をもつ大学が相当あることを知り、新たな発見もありました。外国籍の人の発表を見て、日本語を母語としない人がどのように日本語を捉え、研究対象としているのか学ぶことができました。

それから、おいしいごはん！台湾はとっても食事が美味しく、特に懇親会では選りすぐりの台湾の食事を用意していただきました。

出発前に吉田南総合図書館でガイドブックを借りるなど、しっかり情報を得ることもできました。本当は、台湾に関する文献を読んで出発したかったのですが、間に合わず！

¹ <http://www.ku.edu.tw/>



足を運ぶべきもの、

学会。

in 台湾

聞くはさらなり、発表するこそ、をかしけれ。



開館日程表

9:00-20:00
10:00-15:00
休館(日・祝日)
定例休館日

1月

13日(火)

冬季特別貸出図書返却期限日

後期試験期のため28日(定例休館日)も開館いたします。

1 12月28日-1月5日: 冬季休館

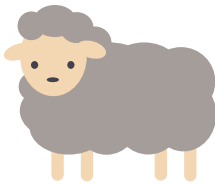
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

3 3月25日-4月3日: 春季休館

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				



「環on(わおん)」(人環棟1F)

開室: 平日9:00-17:00

本館の定例休館日も開室

休室: 土日祝日ほか

(本館の休館日と同じ)